

第3回 VICS プローブ懇談会 議事概要

1. 開催日時・場所

日 時；平成18年3月15日（木） 10：00～

場 所；虎ノ門パストラル 新館 5F ミモザ

2. 出席者

桑原（座長）、赤羽、森川、秋山、高田、今井、黒瀬、黒崎（代）、浮穴、岩越、中村、岩貞、清水（代）、時津、瀬戸、辻、藤井、小林、佐々木、森、長谷川（敬称略、順不同）

代理出席の委員は（代）と標記

3. 議事概要

- ・ プローブの規格・仕様については、欧米各国でも使えるようにISO等でも活動を行い、日本がイニシアチブを取る立場にある。今後とも関係機関と連携しつつ進めるべき。
- ・ 民間で収集されたデータとの融合・連携も検討すべき。
- ・ プローブ情報の収集で車載ID、時刻、位置の3種類が基本。ただし、今後の拡張性への対応も検討。
- ・ 都市部の2階建て（高架道路の下にも道路が整備されている）道路への対応が課題。前に通過したビーコンの情報を車載器が認識することによる解決策等がある。
- ・ IT新改革戦略に位置づけられた安全を優先として進めていくべき。
- ・ プローブは高度な交通管制・道路交通情報提供の高度化に必須。通信技術の進展に伴い多様なメディアへの対応も念頭に置きつつ、車載器の高度化により、さらに大きな効果・成果が期待出来る。安全運転支援のための実験等も、検討している官民連携で進めるべき。
- ・ 全ての車載器で情報を収集する事が必要か、実現可能か検討すべき。また、ユーザーに対して負担をどこまで求めるかと言う点も整理する必要がある。
- ・ 配信のメディアについても、より安く的確に欲しい情報を提供出来る方法を検討すべき。
- ・ 安全については、渋滞・駐車対策等多面的なアプローチが必要。
- ・ プローブの場合、ある程度の台数が必要。普及目標を掲げて、価格設定・仕様を決めて行くべき。
- ・ プローブで情報収集・提供路線が増えた場合、抜け道対策への対応も必要。
- ・ 規格・仕様の方向性については承認。今後の在り方については、検討を重ねる。

以上